



福祉と住環境を考える

ふくてっく

2006年 7月
第71号

特定非営利活動法人
ふくてっく

559-0034大阪市住之江区南港北2-1-10 ATC ITM棟 11F イツィ以L
TEL/FAX 06-6614-6800 ホームページ http://www.occn.zaq.ne.jp/fukutech/

環境デザインの世界

関係をデザインする



6月定例学習会
平成28年6月3日(土)
大阪工業大学
田中一成 先生

私の専攻は都市計画と環境デザイン、大阪工大の所属は都市デザイン工学(かつての土木工学)である。東京生まれの関東育ちで、名古屋・福岡を経て、現在は神戸住まい。大阪工大勤務は3年目になる。本日の話題は次の3点。
1. 都市デザイン工学における「デザイン」と「環境デザイン」
2. 三次元の理論と四次元の理論 「関係のデザイン」の視点
3. 環境デザイン研究の紹介
■デザイン学(デザインには二の側・7つの技術がある

る)

デザインはその流れにそって二の側がある。

- ①現実を解釈し②問題意識を持つ ③調べて計算して分析して考えて・・・
- ④アイデアを見付ける、文・形にする ⑤図・絵や数値で表現して⑥言葉で人に伝える・納得してもらう
- ⑦ 図・模型映像実験 ⑧形にして造る人に伝える ⑨造る準備 ⑩実物をつくる
- ⑪管理運営し修理(メンテナンス)する。

そしてその過程でデザイナーには次の7つの技術が必要になる

- ①理解し疑問をもつ ②調査分析する ③企画発想する ④コミュニケーションができる ⑤作図する ⑥制作する ⑦メンテナンス

これらを大すると①コンセプトを創る技術(分析・企画・発想と創造力) ②形を創る技術(計画・設計・形にする表現する)の2種類の技術が求められるのである。

■環境デザインと景観デザイン

デザインをその対象のスケールの大小で序列すると、①プロダクト・工芸デザイン ②インテリアデザイン ③建築デザイン ④複合建築・地区デザイン ⑤造園・緑地デザイン ⑥都市・アーバンデザイン ⑦地域デザイン ⑧グランデザイン というように分類することができ、かつてはそれぞれの分野が独自にプロフェッショナル化していた。

新しいデザインの考え方は、そうした縦割りを問題視し、これを横につなぐ考え方が必要ではないかと、30年前から提唱され始めた。これを「環境デザイン」と呼んでいる。同様に「景観デザイン」も建築以上のスケール領域のデザインを横につなぐものだ。

ただ、まだまだ旧体制の権威も強く残存していて、ややもすると、その一部に吸い込まれそうになっているが・・・要するに様々なレベルをプロデュースするデザイン手法である。そもそも「デザイン」というと、「用」より「美」に、「機能」より「意匠」に偏したものと捉える誤解があった。そうではなく、真のデザインはその両方を含むものである。

■3Dとデザインの世界・・・なぜ3Dか?
我々の廻りの世界(空間)は3次元で構成されている。それは、我々が知覚する世界は視覚で認知される世界は脳は3次元で理解するように訓練されているからだ。しかし、例えば優れたスポーツ選手は少し先の時間を見ることができるようになり、4次元の知覚も近年確認され始めている。

プロは2次元の図を見て、3次元を認知できるが、一人の人は必ずしもそうではない。プロが新しい技術を会得することによって説明する力は飛躍的に増大する。人は人の印象を目から95%、声で8%理解しており、話の内容は75%に過ぎないと言われる。言葉による説明なしに理解させる3Dのプレゼンテーション技術が注目されているのはこのためだ。すこし3D映像の例を紹介する。

ともかくも、私たちは最終的には、形を創ることを目標としている。3D映像技術によるプレゼンテーションは環境デザインの分野で成を生むことに欠かせないものだ。

■三次元の知覚と認知・・・人ほどのように3次元を知覚するか
基本となる視覚とは光を感じることであるが、3次元を知覚することができるメカニズムには

- ①置を知覚する(輻湊と調節)
- ②形や向きを知覚する(両眼視差・遠近法情報・運動視差)
- ③動きを知覚する(両眼間速度差・ルーミング)

等があるがまだまだ知覚の分野には解っていない領域があり、空間相手の職業でありながら3Dの活用が(とりわけ表現領域で)遅れている。

■ランドスケープ(遠景・中景・近景)
学生の研究事例をいくつか紹介する。(中略)

まとめ
都市デザイン工学における「デザイン」と「環境デザイン」。

3次元の理論と4次元の理論(関係のデザイン)。

そして、今後の課題は地域とのつながりにあると考えている。
(記 中北 清)

子ども木工教室

はぴeライフ スクエア京都

4月29・30日の2日間、京都市の烏丸四条にある関西電力シヨールーム「はぴeライフスクエア京都」で子ども木工教室が開催された。木工部の中から有馬・平松・長岩・光川の諸氏と杉浦の5名が参加した。

会場となった関西電力のシヨールームはオープンしたばかりで、我々に提供された部屋はガラス張りのピカピカで、机を汚さないようにテーブルカバーを掛け更に新聞紙を敷くなどずいぶん気を使った。木工教室は午後1時からと3時からの2回で、1時からの部は参加者が親子合わせて5名程度で多少がっかりしたが、3時からはお子とおばあちゃんも参加で10名を超え、お世話するスタッフも大忙しで、やりがいのある1日だった。ただ、主催者の要望で大工道具を一切使えなかったのが残念だった。



(杉浦 史郎)



わいわい祭り

社会福祉法人奈良手をつなぐ育成会の知的障害者施設が主催する「わいわい祭り」が6月4日に開催され、木工部が材料・機材・テント2張り・のぼり数本を運び入れ、「子ども木工教室」の看板を立てた。この施設は近鉄の飛鳥駅から徒歩五分のところであり、竹林に囲まれた閑静な地にある。そのすぐ横に保育所があり、会場となったのはその保育所の広いグラウンドである。

ろで真っ赤な顔をして店番をしておられる。

参加メンバーは有馬・松本・長岩・葛西・光川・杉浦と午後から脇坂・秋岡の両氏が顔を見せられた。

午前3時にスタートし、大勢の障害者や一の方々にテントの中は大賑わい。あっという間に閉店の3時が来てしまった。

材料や道具の運搬を快く引き受けてくださった大和建設の立溝さんには大いに感謝の意を表したい。ありがとうございました。

(杉浦 史郎)

を乗せ、白い煙をはいり、周りに沢山のテントが張られる、地域にある作業所や福祉関係施設のお店がある。我が会員の佐藤さん(主催者)はというのと、生ビールのとこ

定例会のお知らせ

内容	◆学習会 講師・テーマ未定
◆定期総会 (3時頃より)	
日時	8月 9月
場所	大阪市立社会福祉センター会議室(予定)
日時	9月2日(土) 午後1時30分~5時頃



平成18年度会費のご案内

ふくてっく会員の皆様、日ごろの活動お疲れさまです。7月1日から新年度に入りますので、18年度会費のお支払いをお願いします。郵便払い込みにてご送金されるか、例会参加時にお支払いください。こむねっと部会所属の方はこむねっと会費のお支払いもお願いします。

尚、退会される方、住所変更等のある方はご連絡ください。

金額 正会員 年額 10,000円

信会員 年額 1,500円

こむねっと会員 年額 3,000円

振込み先 郵便局備え付けの払い込み用紙をご使用ください。

口座番号 00970 - 5 - 183177

加入者名 特定非営利活動法人 ふくてっく

連絡先 ATC事務局 TEL/FAX 06 - 6614 - 6800

メール izumih@sannet.ne.jp 和泉まで

住宅改修 事例報告

- A 依頼内容
- B 日常生活と家庭状況
- C 解決方法
- D 改善後の状況と考察

松原市80歳前半 女性要介護1 身体障害者3級 業者委託 大和建設

A 依頼内容

安心して入浴できる浴室の環境整備、一人で夜間安全に利用できるトイレの環境整備、屋内の移動動作を安全に行える環境整備。

B 日常生活

ご家族はご本人・娘さん(40歳代)・孫(男子高校生)の3人暮らしです。日常の介助は主に娘さんですが、娘さんも仕事があり昼間は一人になります。今回

介護保険の住宅改修・住宅改造助成金を活用する為に介護認定を申請しました。

ご本人は視力障害、変形性膝関節症により、移動動作が不安定でした。

現況の浴室は、洗所と段差があり(スノコで段差解消をしています)が安定性が悪い)浴槽も深く、浴室内の移動や入浴動作にはいつも介助が必要です。また、使用後にスノコを持ち上げ

ての清掃は、娘さんの身体的負担になってきていました。



浴室 スノコを設置して使

スノコを立てかけたところ



浴室改修後 介護スペースを確保



入口・洗い場部分

います。

減できた住宅改

修に、ご家族喜

んでいます。

います。

います。

います。

います。

います。

います。

夜間トイレ利用時に転倒することが多く、その原因と考えられるのは、トイレ内の床段差や洋式便器座の低さでした。(座370mm、使用に際し関節に負担がかかり痛みを生じて転倒)

1300mmの浴槽に交換
⑤浴槽内移動用・立ち上がり・姿勢保持用の手摺等の取付
⑥内釜を給湯器に変更
⑦壁の補修、
トイレ
⑧床段差の解消
⑨小壁撤去
⑩洋式便器の交換(便座高さが低い場合は、補高便座等で高さ調整しますが、現況の便座はU型でありこの便座に適合する補高便座はなく、便器の交換が介護保険で認められました。)

家具などを手摺代わりに利用し生活していらつしやいます。代替の無いところは壁や建具に手を添えて移動動作・開閉動作を行っていました。

⑪移動用・座保持用・立ち上がり用手摺の取付
⑫洗所との境を2枚引き込み戸に変更
廊下・勝手口 姿勢保持用・移動用手摺の取付

⑬解決方法
浴室 ⑭約1坪のスペースがあり、浴槽背側に介助スペースを確保
⑮床段差の解消
⑯入口開き戸を折れ戸に変更、有効開口幅750mmを確保。
⑰浴槽の立ち上がりは400mm、L

⑱浴室は見守り程度(声掛け)で安全に入浴することができ、トイレも障害になるものが無く安心して排泄ができるようになりました。介助入浴から見守りへ、夜間安心してトイレ利用ができる環境整備。自立と介助負担を軽減できた住宅改修に、ご家族喜んでいらつしやいます。



トイレ改修前

将来排泄動作に介助が必要になる時のこと考え、スペース確保の為洗面とトイレの境を2枚引き込み戸にした事が、窓の無く暗かった洗面に外光を取り込むことができました。ご本人も



整容行為をすすんで洗所で行うようになったそうです。(清水麗子)



トイレ内手すり



廊下手すり

超高齢化社会と

高齢者の住環境

PART 2

5月定例学習会

平成18年5月13日(土)

住宅改修部・研修部

* * *

「老後をどう迎えるか」

「住宅改修事例の検討」

住宅改修課題説明(清水会員)の後、畑会員から問題提起。ふくてつくのミッションは、一軒でも多くの家屋をバリアフリーにして、最期は自宅で迎えることのできる社会を創ることだ。バリアフリー住宅に住んでる人は福祉先進国のスウェーデンでは56%、低福祉国のアメリカでさえ50%あるのに対し、日本はわずか0.8%にすぎない。

アメリカにはCCRCという、ホスピスを中核とする老人コミュニティが造られて、裕福な老人は暮らすことができる一方、貧困層は悲惨な状況にある。日本では春山満氏がCCRCを導入しているが、評判は芳しくないようだ。大規模施設整備を止めて、小規模多機能ホーム(拠点)の推進が叫ばれているが、全く進んでいない。とにかく行政



には任せられない。

官僚の原則は、①責任をとらない②投資効を考えない③弱者の味方をしない④内部批判をしない⑤結局は市民どうしの助け合い、そして自分で守るしかないようだ。そして、なんと言っても少しの蓄えは必要。それでも住環境が不備だと最期は施設に頼るしかないが、施設にも限界。比較的安価な有料老人ホームもできつつあるが、職員は低賃金で激務。若いスタッフが続かない。さあ、あなたはどうする。

■Cグループ(老後をどう迎えるか) 佐藤会員発表

高齢社会を生きるパターンとしていくつかの生き方がある。1つは身内を中心に生きる、これが一番望ま

しかつたが今後はどうか。現実はそのも言っておられない。そこで制度を利用することになるが、不安ばかり。ということ、住んでる地域社会に豊かなコミュニティを復活して生きて行くことが模索されている。けれども、例えば町内会のバスツアーさえも継続困難になりつつある昨今だ。どうすればいいのか、抜本的に問い直す必要がある。

■Dグループ(老後をどう迎えるか) 上野谷会員発表

このグループでは結論は出ていない。というより、皆好きなことばかり発言して、まとめる気はぜんぜんない。でも、和やかに話ができ、内容は殆どCグループの発表に重なる。ともかく老後も生き甲斐を持つて生きる基盤づくりが大切で、そこに行政レベルでの努力をうまく活用して行くことだろう。

■Bグループ(住宅改修事例の検討) 小川会員発表

予算や、本人の年齢を考慮して、改修工事は最小限にする。玄関と寝室・トイレまわりに集中した。玄関の開口と土間を拡幅し、段差解消機を設置してFL(現況畳天端)に上がる。室内移動は手動車いすとい

う前提(電動車いすは身体事情により使用不可と判定)。寝室はコルクタイル(汚れたら部分更新でき、クッション性も)浴室はさわらず、トイレと洗を一室にして、寝室とはアコーディオンで区画。こちらはCF。便器置かえて環境改善。トイレとベッドまわりを緊急報装置。暖房設備も整えて、ヒートショックを避ける。

■Aグループ(住宅改修事例の検討) 山本会員発表

生活の場として寝室と居間をひと続きにした。玄関から寝室へのルートとして台所を利用し、レベルは台所に合わせて寝室やトイレを下げる。電動車いすでの移動を考え床の補強が必要となる。書道教室の名残を残す意味で店の間、中間をさわらない。トイレの計画。右手しか使えないことを配慮して、向きを変える。後藤会員より、寝室を拡げたのはいいと思うが、台

所を上げた方がいいのではない。床を下げる工事は大変だ。

■中北会員より、8才で脳梗塞になつてから電動車いすは使えないのではない。葛西会員も同意見。

吉本会員より、車いすですらトイレに行きたいという要望だが、夜休んでいる時に車いすで移動してトイレに行くことはとても難しい。それよりもベッド脇に置くポータブルを工夫する方法も考えて欲しい。

■畑会員より現実の解決案の説明。現実には予算は100万以内だった。スペースの関係でスロープは無理だから段差解消機を設置するのは両案と同じ。床を下げるのは工事上大変。上げるほうが簡単。水回りまで下げるとなると配管勾配の調整も難しい。この案ではトイレを洗濯場にして洗面をトイレに改装、便器置は左麻痺を考慮している。浴室は娘さんが使えるようにそのまま残した。

清水会員、車いすへの移乗をどうするのか、立や歩行ができるかなどをチェックしないといけない。夜間にトイレへ行きたいという要望の現実性には疑問がある。

■杉浦理事長の総括 Dグループ

ループの上野谷さんご苦労様。私もDにいたが話の内容はCとダブル。正直私たちの生活はどうなるかという不安が大きい。結論は小銭をあつめなあかん。認知症になると判断能力を失うので事前の準備が大事だが、以前に行った調査で興味深い資料がある。インターネットを利用したアンケートだったので2003年台が多かった。老後どこに過ごしたいかという、環境の良い山村や海辺が多い(特に男性)が女性は都会に住みたいようだ。男女とも3%は現在のすまいを希望するなか、海外も結構多く約20%。海外は生活費が安いのが評価されている。暮らし方については夫婦でも単身でも自宅志向が強く(約9割)、施設志向は1割。住宅改修を若いうちにやりたいも結構多い(浴室、トイレ、次に廊下と玄関)。

住宅改修検討を聞いて、いつもの事例報告にもっと情報を多くしたらより興味深いことになるだろうと感じた。

(記 中北 清)